

作成日 2020年2月27日

安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称	0.1N フタル酸水素カリウム溶液
会社名	武藤化学株式会社
住所	東京都文京区本郷2-10-7
電話番号	03-3814-5511
ファックス番号	03-3814-5511
電子メールアドレス	mutopop@mutokagaku.com
緊急連絡電話番号	03-3814-5511
推奨用途及び使用上の制限	検査・研究用

2. 危険有害性の要約

GHS分類 物質又は混合物の分類

急性毒性(経口)	区分5
急性毒性(経皮)	区分外

GHSラベル要素

絵表示	なし
注意喚起語	警告
注意書き	
安全対策	該当なし

応急措置 気分が悪い時は、医師に連絡すること

保管 直射日光を避け、容器を密閉して保管すること

廃棄 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること

他の危険有害性 情報なし

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合製品

化学名又は一般名	フタル酸水素カリウム	水
濃度又は濃度範囲	2.04%	97.96%
化学式	C ₆ H ₄ (COOK)(COOH)	H ₂ O
CAS番号	877-24-7	
官報公示整理番号(化審法)	(3)-1342	
官報公示整理番号(安衛法)		
添加物		

4. 応急措置

吸入した場合

呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪い時は、医師の手当てを受ける

皮膚に付着した場合

皮膚を流水又はシャワーで洗う。皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける

眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼刺激が持続する時は、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当てを受ける
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護 医師に対する特別な注意事項	情報なし 情報なし
5. 火災時の措置	
消火剤	本品は可燃性である。粉末消火剤、泡消火剤、水噴霧、二酸化炭素、乾燥砂大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	情報なし
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	河川、下水道、土壤に排出されないように注意する
封じ込め及び浄化の方法及び機材	危険でなければ漏れを止める
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い 技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 皮膚と接触しないこと。 眼に入れないこと。
混触危険物	強酸化剤
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
保管 安全な保管条件	直射日光や高温多湿を避けて保管する。容器を密閉して保管する。混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。

安全な容器包装材料

ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 未設定
許容濃度 日本産衛学会 未設定
ACGIH 未設定

設備対策 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。ばく露を防止するため、装置の密閉化又は防爆タイプの局所排気装置を設置すること。

保護具 呼吸用保護具 適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具 適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具 適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状 液体
色 無色
臭い 無臭
pH 酸性
融点 約0°C
沸点、初留点及び沸騰範囲 約100°C
引火点 データなし
燃焼性(固体、気体) 情報なし
燃焼又は爆発範囲 データなし
蒸気圧 データなし
溶解度 水に溶ける
n-オクタノール／水分配係数 データなし
自然発火温度 データなし
分解温度 データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 通常取扱条件において安定である
化学的安定性 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性 強酸化剤と混触すると、反応することがある
避けるべき条件 高温、直射日光
混触危険物質 強酸化剤(硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウム等)
危険有害な分解生成物 一酸化炭素、二酸化炭素、カリウム酸化物

11. 有害性情報

急性毒性 経口 経口 ラット LD50>3200mg/kg (RTECS) から、安全性を考慮し 区分5とした(国連GHS分類)。ただし、分類JISでは区分外である。飲み込むと有害のおそれ(経口)(区分5)
経皮 データなし
吸入: 粉じん及びミスト データなし

皮膚腐食性及び刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	データなし
呼吸器感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
吸引性呼吸器有害性	データ不足のため分類できない。
12. 環境影響情報	
生態毒性 水生環境有害性(急性)	データなし
水生環境慢性有害性	データなし
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国内規制 海上規制情報	非該当
航空規制情報	非該当
陸上規制情報	非該当
特別安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
15. 適用法令	
労働安全衛生法	非該当
消防法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
化審法	非該当
海洋汚染防止法	非該当
水質汚濁法	非該当
航空法	非該当
16. その他の情報	
参考文献	

化学品安全管理データブック 化学工業日報社
製品評価技術基盤機構 GHS分類
化学物質評価研究機構 化学物質ハザードデータ集
化学物質規制・管理実務便覧 新日本法規

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有毒性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。